

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・活動内容によって教室環境を整備し、児童にとって活動しやすい環境をつくることができた。
- ・児童にとって、手や体全体を十分に働かせたり、材料や用具の適切に扱ったりできるように指導できた。
- ・身近にある作品や自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さを感じとったり、自分の見方や感じ方を広げさせたりすることができた。
- ・様々な題材を扱うほか、作品制作に当たって道具を効果的に使い、創造しながら作るよう指導していくことができた。

(2) 課題

- ・計画的に作品作りに取り組めるよう、活動内容の大まかな流れや、見通しを持たせる必要がある。
- ・これまでに学習した材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かすことを意識させた指導をしていく。
- ・材料や用具自体のよさについて理解し、活用する能力を高めていく必要がある。
- ・創造力を働かせるような活動を展開させるとともに、計画性をもって活動していけるように指導する。また、児童同士の鑑賞の場を設け、お互いのよさを認め合う指導をする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作品作りに取り組めるよう、題材全体や一単位時間の流れを掲示し、見通しをもてるような学習を展開する。 ・用具を安全に正しく使うことができるよう、口頭や参考動画で使用方法を丁寧に説明する。また、用具を扱う時間を十分に確保する。 ・これまでに学習した材料や用具などを生かすことができるよう、声を掛けたり、ポスターを掲示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって簡単で、楽しめる材料を使って、組み合わせたり、切ったりつないだり、形を変えたりする等に取り組ませる。 ・互いの作品の色や形のおもしろさやよさを見つけ合う時間を設けるようにする。また、ワークシートに記録したり、伝え合ったりすることで、自己の学びを深められるようにする。 ・あらゆる感覚を働かせることができるように、いろいろな方法を試す材料や時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入では、材料と触れ合う時間を設けたり、ICTや実物の作品を見せたりする等、題材への意欲を高めていく。 ・身近にある豊かな自然環境や季節感を活用して、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使って造形感覚や感性を磨いていく。 ・身近にある作品や自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さを感じとったり考えたりすることで、自分の見方や感じ方を広げさせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作品作りに取り組めるよう、題材全体や一単位時間の流れを掲示し、見通しをもてるような学習を展開する。 ・導入時には、示範演示やICT機器等を使用した参考作品等の提示を行うことで、作品作りへのイメージをもちやすいようにする。 ・様々な教材を扱ったり、用具を効果的に使って、創造的な学習活動ができるよう、個に応じた指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んできた表現方法、技法、材料などを生かしながら制作活動に取り組めるよう、材料や用具を児童自身に選択させたり、様々な方法を組み合わせたりできる場を用意していく。 ・各題材において、一人一人のアイデアや作品のよさを見つけ、伝え合う時間を設ける。また、ワークシートに記録したり、伝え合ったりすることで、自己の深い学びにつなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入では、材料と触れ合う時間を設けたり、ICTや実物の作品を見せたりする等、作品作りへの意欲を高めていく。 ・自分たちや諸外国の作品、生活の中の造形など、様々な作品の鑑賞を通して、作品が身近なものである感じられるようにしていく。 ・お互いの作品の鑑賞では、それぞれの違いや努力を認め合えるような場面を設定し、それぞれの良さを価値づけていく。

